

『事業名:福島発「復興知」の総合化による食と農の教育研究拠点の構築』 2019年度事業の概要

福島大学 連携市町村:川内村・南相馬市・飯舘村・大熊町
現地拠点 :双葉郡川内村上川内早渡11-24 川内村役場内 ほか

事業のポイント

震災から10年が迫る中、復興事業の見直しが進み、復興支援活動・研究の規模・多様性が急速に失われつつある。本事業は福島大学が“扇の要”となり、全国の大学と連携し、これまでに確立されてきた『復興知』の収集・整理を経て、その総合化による食と農の教育研究拠点を構築を目指す。ここで体系化する「復興知」は、福島大学の学生だけでなく、被災者・復興の実務者・全国の大学生に還元できるスキームとして構築し、食と農、ひいては福島の復興に資する人材育成を持続可能なものとしてゆく。

2019年度の取り組み内容

- ①農林水産業の復興支援研究に従事してきた全国の研究者をつなぐ「復興農学有識者会議(仮称)」「復興農学研究会(仮称)」を組織し、その運営をする。また既存の『復興知』の情報収集・整理をし、その体系化による食と農の教育研究拠点の構築を目指す。
- ②復興支援研究をしてきた研究者の協力を得て、『復興知』の総合化を図るべく、1)福島フォーラム、2)現地ツアー、3)出前講義、4)先端技術体験、を企画・実施する。
- ③継続する復興支援研究の中でも、特にハイパースペクトルカメラを用いた水田土壌の地質・化学性の評価法を導入し、イネのセシウム吸収リスクの評価と営農再開・指導のあり方を検討する。
- ④福島大学食農学類の専門教育と、復興農学や復興知の接続を検討し、大学間連携による共同教育プログラムの可能性を探る。

取り組みによって得られる成果

- ①既往の復興支援研究の成果の収集・整理・体系化
- ②福島大学を核とした復興に関わる研究者・実務家のネットワーク化連携促進
- ③全国の研究者との連携による福島大学を核とした食と農の教育研究拠点の構築

浜通り市町村等における
大学等や研究機関と連携した教育研究活動の取組み

A) 復興農学有識者会議(運営:福島大学)

【主幹大学】
福島大・東京大・東京農工大・東京農業大・郡山女子大学・福島高専

B) 復興農学研究会



C) 福島フォーラム



D) 現地ツアー



E) 出前講義



F) 先端技術体験

G) 復興支援研究

- 国内外の大学・研究機関
- 福島県
- 国(復興庁・農林水産省)
- 福島イノベーション・コースト構想推進機構



- 被災14自治体
- NPO・市民団体
- 民間企業
- 農業者
- 復興人材・実務家
- 全国の大学生(福島大学を含む)



浜通り市町村等における
教育研究活動の長期的継続・拡大を目指す取組み